



郷土史

ていね

第 38 号

平成 23 年 2 月 9 日

手稲郷土史研究会会報

第 57 回（平成 23 年 1 月 12 日）定例会の講演要旨

## 「手稲金山の道庁公宅で過ごした思い出」

元稲穂金山まちセン所長 丹羽紀美 氏

誕生から、およそ 9 年間手稲金山で過ごされ、美香保へ移られました。その後も色々経験を重ねられたのでしょうか。稲穂金山のまちづくりセンター所長をなさって、地域に恩返しされました。きっと金山で、友人や両親の近所付き合いに触れたおかげだったと思います。希薄になってしまった今日の日本に、もう一度取り戻したいところです。



鉱山の写真、学校関係、ご家族その他の写真。鉱山の思い出はきっと丹羽少年の心に、強く刻まれたのではないのでしょうか。20 年度のバスツアーの時、鉱山で数台のトラックが廃棄物を運ぶのを見て、貴重な物を採取した後に、やっかいな副産物を、今でも処理しなければならないことに驚きました。炭鉱のような事故や病気は、無かったのでしょうか。7 千人もの人が住んでいた。住宅が密集していて、学校、電力、水道、病院、郵便局と、1 つの町が形成されていた。手稲鉱山の住宅を、道が買い取って改修されたところへ、道職員と家族の方々が入居された。自然に囲まれた中で、生活されたと思います。半鐘に石を投げたり、バスに向かって弓矢を打ったり、家庭菜園で大根、人参まるかじりとか。我家にも自分の畑より、よそ様の畑の大根をかじった。うさぎを捕まえて食べたなどと言っている人が、1 人居ます。野球にマラソン。勾配があり、筋力がつきます。充分体力作り出来ました。その成果が、美香保へ転居してからの体力テストでトップ。スポーツする人は、頭も良いと聞きますが、集中力がつくのでしょうか。金山時代には、小学 3 年生で書道 1 級の腕前。

美香保で中学 2 年生のクラスレクレーションに星置の滝を選ばれて、クラスメイトは、喜ばれたでしょう。その後もリーダー的存在で、ご活躍されたと推察します。

ふるさとの山にむかいて言うことなし

ふるさとの山は、ありがたきかな。

啄 木

（文責：上出よう子）

## 「新 発 寒 ま ち づ くり の 歩 み」

前田 佐々木光男氏・明井久嘉氏



手稲山を春の光風が緩やかに流れていた。

花樹たちは賑やかに謳っていた。山の麓では「ワラビ」がにぎり拳を突き上げるように原々いちめん生えていた。

泥炭で湿地帯の農耕に適さない「陸の孤島」と呼ばれた地域に“新しい町”を作る計画が活動を始めた。当時は「商店もなく」「水道もない」珍しい地域であった。しかも勤労者の手による最初に分譲団地という。“開拓魂”がなければ出来ない“不屈”の精神の人達であろう。

街灯が増設される度にどれほど希望の光が見えたことか。熱い思いを感じる。又、風、雨、雪に耐え、人々の思いをふるえながらささやく1本の「ポプラ」の巨木に感激せずにはおられない。

私は太陽に勾配 15°で伸びていく枝々の「ポプラ」に生きる生命を感じます。

今後の町の進化と進歩に期待します。

（文責：中村恭治）



### 次回の予定

次回（3月9日）は、元小学校長 一関庶路氏の講演「樺太の現状 ~ 気屯のトーチカなどを見て~」を予定しております。

また、後半の時間で、「平成 22 年度を振り返る」つもりであります。

### 石碑めぐり(1) 馬頭大神

建立 年昭和 10 年（1935 年）5 月

新発寒地区で人馬が一体になり開拓を進めてきた歴史を伝える碑です。長い風雪にさらされて、台座の文字も読めなくなってしまったので、となりに「発寒稲積開拓記念碑」が新設されました。

所在地 / 新発寒 5 条 1 丁目 1 北発寒稲積会館横  
（「手稲区歴史ガイドマップ」より）



### お 悔 や み

当会の会員で、会のために御協力いただいております星置の渡邊正之氏が、1月12日に急逝されました。

会のためにご尽力いただいたことに感謝し、ご冥福をお祈りいたします。